

—国内動向—

1 東京都・大阪市中央卸売市場の需給動向（令和8年7月）

【ポイント】

- 気温は、北・東・西日本でかなり高かった。降水量は、北日本日本海側と北日本太平洋側で多かった一方、東・西日本日本海側、東・西日本太平洋側、沖縄・奄美で少なかった。日照時間は、西日本日本海側と沖縄・奄美でかなり多かった。
- 東京都中央卸売市場における野菜の入荷量は9万8161トン、前年同月比93.7%、価格は1キログラム当たり322円、同110.5%となった。
- 大阪市中央卸売市場における野菜の入荷量は3万2259トン、前年同月比92.9%、価格は1キログラム当たり298円、同112.9%となった。
- 9月は、学校給食の再開やイベントの増加に伴って需要が高まり、市場価格は堅調に推移すると見通される。

(1) 気象概況

北日本は、上旬は高気圧に覆われやすかったが、中旬以降は低気圧や梅雨前線、湿った空気の影響を受けやすかった。このため、月降水量は北日本日本海側と北日本太平洋側で多かった。一方、東・西日本と沖縄・奄美では、高気圧に覆われやすく、晴れた日が多かった。このため、月降水量は東・西日本日本海側、東・西日本太平洋側、沖縄・奄美で少なく、月間日照時間は西日本日本海側と沖縄・奄美でかなり多く、東日本日本海側と東・西日本太平洋側で多かった。

日本付近では偏西風が平年より北側を流れたため、北・東・西日本を中心に暖かい空気に覆われやすかった。このため、月平均気温は北・東・西日本でかなり高かった。関東甲信地方、東海地方、四国地方、九州北部地方では下旬に酷暑日となった所があった。沖縄・奄美では、暖かい空気に覆われやすかった時期もあったが、台風通過後に周辺で海面水温が低下した影響を受けた時期もあったため、月平均気温は平年並みだった。

○平均気温は、北日本、東日本、西日本ではかなり高かった。沖縄・奄美では平年並みだった。

○降水量は、北日本日本海側、北日本太平洋側では多かった。東日本日本海側、東日本太平洋側、西日本日本海側、西日本太平洋側、沖縄・奄美では少なかった。

○日照時間は、西日本日本海側、沖縄・奄美ではかなり多かった。東日本日本海側、東日本太平洋側、西日本太平洋側では多かった。北日本日本海側、北日本太平洋側では平年並みだった。

旬別の平均気温、降水量、日照時間は図1の通り。

（出典：気象庁HP「2026年7月の天候」）

図 1 気象概況

	平均気温			降水量			日照時間		
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬
北日本				日本海側 太平洋側					日本海側 太平洋側
東日本				日本海側 太平洋側		日本海側 太平洋側	日本海側 太平洋側	日本海側 太平洋側	日本海側 太平洋側
西日本				日本海側 太平洋側			日本海側 太平洋側		

資料：気象庁「7月の天候」

1 平年を上回る水準			
2 平年並み			
3 平年を下回る水準			

(2) 東京都中央卸売市場

東京都中央卸売市場における野菜の入荷量は9万8161トン、前年同月比93.7%、価

格は1キログラム当たり322円、同110.5%となった（表1）。

表 1 東京都中央卸売市場の動向（7月速報）

品 目	入荷量 (t)	前年比 (%)	平年比 (%)	価格 (円/kg)	前年比 (%)	平年比 (%)	価格（円/kg）の推移		
							上旬	中旬	下旬
野菜総量	98,161	93.7	84.6	322	110.5	120.1	312	333	322
だいこん	5,864	100.7	87.8	123	108.5	118.7	142	118	108
にんじん	5,504	128.2	106.9	143	66.8	90.0	160	158	120
はくさい	4,988	93.3	85.7	82	119.3	121.7	70	85	94
キャベツ類	14,046	92.3	88.0	91	111.0	113.3	83	94	97
ほうれんそう	735	103.4	90.9	713	97.8	110.1	604	757	819
ねぎ	3,322	103.5	99.1	360	100.8	105.3	412	364	314
ブロッコリー	2,623	105.9	106.9	445	99.5	108.8	466	430	438
レタス類	8,232	86.6	87.5	155	114.5	120.6	134	173	159
きゅうり	5,686	83.9	81.1	438	127.8	148.9	456	456	415
なす	2,707	77.6	79.4	484	118.5	136.1	506	526	447
トマト	5,734	96.6	84.3	470	114.6	132.0	470	504	453
ピーマン	1,821	105.7	91.4	584	101.6	129.6	612	612	547
ばれいしょ	3,466	87.6	83.2	241	202.4	156.9	240	261	226
さといも	96	134.3	83.9	563	99.4	122.5	627	583	510
たまねぎ	6,979	78.8	83.6	160	126.4	114.8	152	168	160

資料：東京青果物情報センター「青果物流通月報・旬報」
注1：平年比は過去5カ年（令和3～7年）平均との比較。
注2：豊洲、大田、豊島、淀橋、葛西、北足立、板橋、世田谷、多摩ニュータウンの9市場のデータである。

根菜類は、にんじんの価格が、北海道産の入荷が開始し、下旬以降下落した。天候不順により東北・北海道産が不作だった前年を3割以上上回り、平年比もかなりの程度下回った(図2)。

葉茎菜類は、はくさいが下旬に向けて徐々に価格を上げ、前年を2割近く上回り、平年を2割以上上回った(図3)。

果菜類は、きゅうりの価格は堅調に推移し、

下旬にやや落ち着いたものの、高値で推移した前年を3割近く上回り、平年を5割近く上回った(図4)。

土物類は、ばれいしょの価格は、好天で収穫が順調に進んだ春先の産地と後続の北海道産の端境となり、価格は大幅な安値で推移した前年の2倍以上、平年比で5割以上上回った(図5)。

なお、品目別の詳細については表2の通り。

図2 にんじんの入荷量と卸売価格の推移

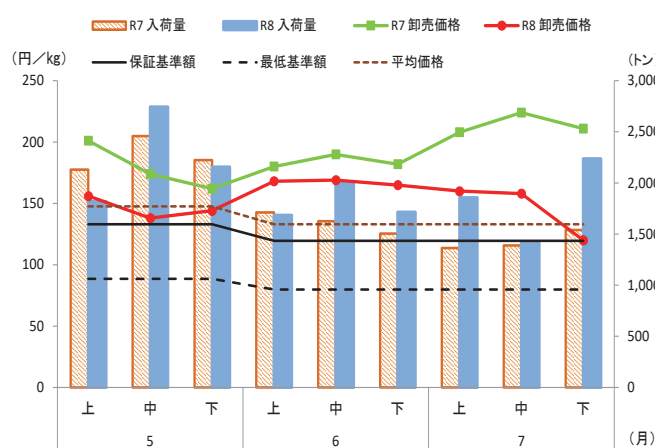


図3 はくさいの入荷量と卸売価格の推移

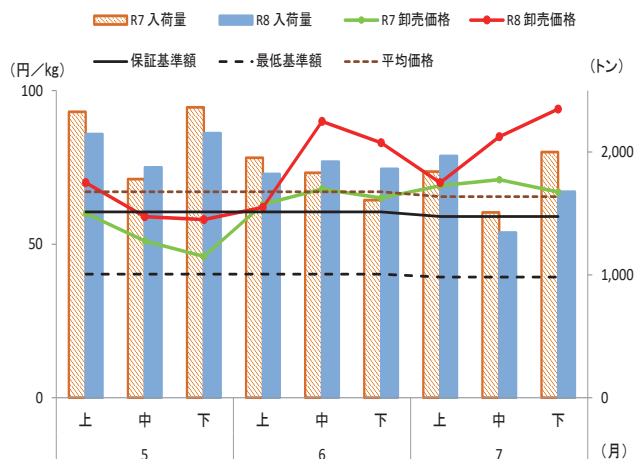


図4 きゅうりの入荷量と卸売価格の推移

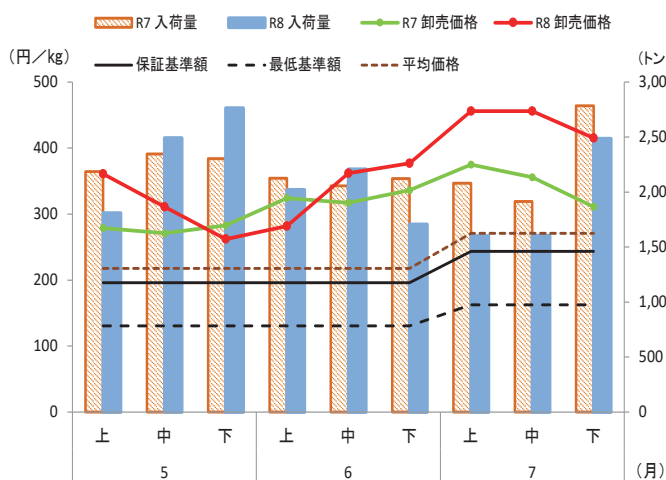
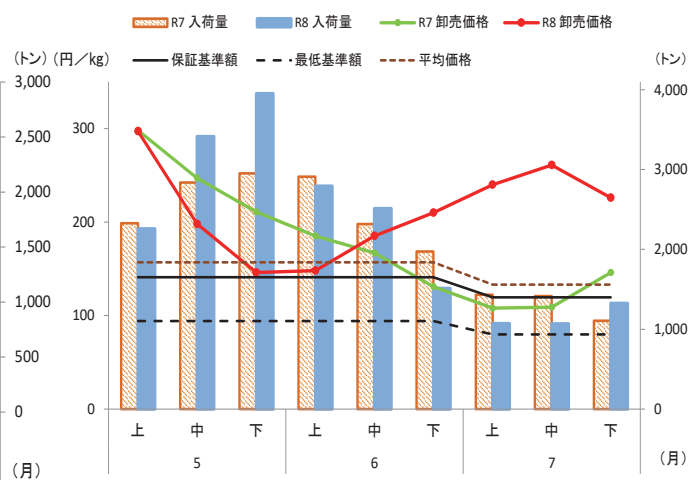


図5 ばれいしょの入荷量と卸売価格の推移



資料：東京青果物情報センター「青果物流通旬報」

注1：卸売価格とは、東京都中央卸売市場の平均卸売価格で、指定野菜価格安定対策事業（以下「事業」という）における平均価格、保証基準額および最低基準額とは、関東ブロックにおける価格である。

注2：平均価格とは、事業における過去6力年の卸売市場を平均した価格を基に物価指数などを加味した価格である。

注3：事業における価格差補給交付金は、平均販売価額（出荷された野菜の旬別およびブロック別の平均価額）を下回った場合に交付されるため、上記の各表で卸売価格が保証基準額を下回ったからといって、交付されるとは限らない。

表2 品目別入荷量・価格の動向（東京都中央卸売市場）

類別	品目	7月の入荷量・価格の動向
根菜類	だいこん 	北海道産を中心に青森産の入荷があった。北海道産の作付面積は前年並みで、生育は気温に恵まれ順調で、やや前進傾向であった。青森産の作付面積は前年を上回り、乾燥傾向により遅延していた生育は回復し順調であるが、形状にばらつきがあった。総入荷量は、少なかった前年をわずかに上回り、平年をかなり大きく下回った。 価格は、中旬以降落ち着いたものの、高値で推移した前年をかなりの程度上回り、平年を2割近く上回った。
	にんじん 	青森産を中心に北海道産などの入荷があった。青森産の作付面積は前年並みで、生育は順調だが、乾燥の影響によりやや肥大不足が散見された。北海道産の作付面積は前年並みで、適度な降雨と気温に恵まれ生育は順調で、7～10日ほど前進傾向であった。輸入の中国産は、前年を4割以上下回った。総入荷量は、少なかった前年を3割近く上回り、平年をかなりの程度上回った。 価格は下旬に下がり、高値で推移した前年を3割以上下回り、平年をかなりの程度下回った。
葉茎菜類	はくさい 	長野産中心の入荷であった。作付面積は前年並みで、4月からの気温の上昇と降雨により生育は順調であった。アブラムシの発生がやや多かった。総入荷量は、少なかった前年をかなりの程度下回り、平年をかなり大きく下回った。 価格は下旬に向けて徐々に上昇し、前年を2割近く上回り、平年を2割以上上回った。
	キャベツ類 	群馬産を中心に岩手産などの入荷があった。群馬産の作付面積は前年並みで、定期的な降雨に恵まれ生育は順調だが、一部湿害やべと病の発生が散見された。岩手産の作付面積は前年並みで、5月下旬の降霜、6月の低温・乾燥の影響により、生育遅延やばらつきが散見された。全体的にやや小玉傾向であった。総入荷量は、少なかった前年をかなりの程度下回り、平年をかなり大きく下回った。 価格は、中旬以降堅調に推移し、前年、平年ともにかかなり大きく上回った。
	ほうれんそう 	群馬産、栃木産の高冷地のハウス物中心の入荷であった。群馬産の作付面積は前年並みで、生育はおおむね順調だが、一部でアブラムシの発生が散見された。栃木産の作付面積は前年並みで、曇雨天の影響によりやや軟弱で徒長気味であった。一部でべと病が散見された。全体に多湿のため、棚持ちの低下が懸念される。総入荷量は、少なかった前年をやや上回ったものの、平年をかなりの程度下回った。 価格は、高値で推移した前年をわずかに下回り、平年をかなりの程度上回った。
	ねぎ 	茨城産を中心に、後続の東北産、北海道産の入荷があった。茨城産の作付面積は前年並みで、夏ねぎは順調で肥大も良好であったが、中旬以降、多湿と気温の上昇による品質低下が見られ、下級比率が上昇した。後続の東北産、北海道産は、乾燥の影響は散見されるものの、その後の降雨により回復しおおむね順調であった。病害が散見されるが、大きな影響はない。輸入の中国産は、前年を2割近く下回った。総入荷量は、少なかった前年をやや上回り、平年をわずかに下回った。 価格は、業務用の納品が無くなったことや、気温の上昇による需要減退から中旬以降下がったものの、前年をわずかに上回り、平年をやや上回った。
	ブロッコリー 	北海道産を中心に長野産などの入荷があった。北海道産の作付面積は前年並みで、病害もなく生育順調で、やや前進傾向であった。長野産の作付面積は前年並みで、低温・乾燥による初期生育の遅延は解消され、順調であった。総入荷量は、やや少なかった前年をやや上回り、平年をかなりの程度上回った。 価格は、やや高値で推移した前年をわずかに下回り、平年をかなりの程度上回った。
	レタス類 	長野産を中心に群馬産の入荷があった。長野産の作付面積は前年並みで、低温・干ばつの影響による生育停滞は、適度な降雨と気温の上昇により回復し、おおむね順調であった。群馬産の作付面積は前年並みで、低温・乾燥で初期成育が停滞していたが、回復し順調であった。総入荷量は、前年、平年ともにかかなり大きく下回った。 価格は、中旬から上昇し、前年をかなり大きく上回り、平年を2割以上上回った。

果菜類	きゅうり	 福島産を中心に岩手産、秋田産など東北産地中心の入荷であった。福島産の作付面積は前年並みで、半促成作は終盤となり、上旬まででほぼ終了した。後作については、5月下旬以降の低温や日照不足から生育はやや遅延した。病虫害も散見されている。岩手産の作付面積は前年並みで、低温および日照不足の影響により、生育は遅延傾向であった。病虫害が散見されている。秋田産の作付面積は前年並みで、5～6月の低温、日照不足の影響で活着が悪く、草勢はやや弱い。また、病虫害も散見されている。総入荷量は、前年、平年ともに大幅に下回った。 価格は堅調に推移し、下旬にやや落ち着いたものの、高値で推移した前年を3割近く上回り、平年を5割近く上回った。
	なす	 群馬産を中心に、栃木産など関東露地作中心の入荷であった。群馬産の作付面積は前年並みで、生育はおおむね順調であったが、台風6号およびその後の曇雨天の影響で生育が遅延した。虫害が散見され、病害は前年より多い。栃木産の作付面積は前年並みで、生育期の高温・乾燥および強風からの曇雨天で生育は停滞した。やや虫害が散見される。総入荷量は、やや多かった前年を2割以上下回り、平年を2割程度下回った。 価格は堅調に推移し、下旬に落ち着いたものの、やや高値で推移した前年を2割近く上回り、平年を3割以上上回った。
	トマト	 北海道産を中心に、岩手産、青森産など東北産中心の入荷であった。北海道産の作付面積は前年並みで、生育はおおむね順調だが、一部の病虫害が平年より早く散見される。岩手産の作付面積は、前年をやや上回り、生育はおおむね順調だが、病虫害が散見される。青森産の作付面積は前年並みで、気温が高めで推移したことから、生育は5日程度前進傾向であった。総入荷量は、少なかった前年をやや下回り、平年をかなり大きく下回った。 価格は、端境となった中旬に向けて上昇し、下旬に落ち着いたものの、高値で推移した前年をかなり大きく上回り、平年を3割以上上回った。
	ピーマン	 茨城産を中心に岩手産などの入荷があった。茨城産の作付面積は前年並みで、終盤ではあるが6月の曇天続きにより生育は遅延した。岩手産の作付面積は前年並みで、生育はおおむね順調であるが、一部病虫害が散見された。福島産の露地作は、生育が遅延傾向であった。総入荷量は、少なかった前年をやや上回り、平年をかなりの程度下回った。 価格は下旬に落ち着いたものの、高値で推移した前年をわずかに上回り、平年を3割近く上回った。
土物類	ばれいしょ	 茨城産、千葉産を中心とした入荷であった。茨城産の作付面積は前年並みで、生育はおおむね順調であったが、曇雨天により収穫作業が遅延した。千葉産の作付面積は前年並みで、適度な降雨と気温の上昇により、生育は順調であった。後続の北海道産は、生育は順調であったが、本格的な出荷開始は下旬からとなった。総入荷量は、やや少なかった前年をかなり大きく下回り、平年を大幅に下回った。 価格は、長崎産、静岡産の切り上がりがあったため、中旬に上がり、下旬に向け落ち着いたものの、大幅な安値で推移した前年の2倍以上となり、平年を5割以上上回った。
	さといも	 鹿児島産中心の入荷であった。作付面積は前年並みで、病害の発生も少なく、適度な降雨に恵まれたため、肥大もよく順調であった。商系の出回りが大部分を占め、全体量は少ない。後続の千葉産は、月末より入荷した。輸入の中国産は、少なかった前年の3倍以上となっている。総入荷量は、大幅に少なかった前年を3割以上上回り、平年を大幅に下回った。 価格は、絶対量不足で堅調推移となり、下旬に落ち着いたものの、高値で推移した前年をわずかに下回り、平年を2割以上上回った。
	たまねぎ	 兵庫産、佐賀産を中心に北海道産などの入荷があった。兵庫産の作付面積は前年並みで、収穫は終了した。適度な降雨により玉肥大は良好で、サイズはL玉が中心であった。一部、6月の台風の影響による冠水被害のため、品質低下が散見された。佐賀産の作付面積は前年並みで、収穫が終了した。気温の上昇と降雨により生育は順調で、肥大も良好だが、一部の圃場で病虫害の発生が散見された。後続の北海道産の生育はおおむね順調で、下旬より出荷が開始した。輸入の中国産は前年を1割近く上回り、ニュージーランド産は5割以上上回った。総入荷量は、やや多かった前年を2割以上下回り、平年を大幅に下回った。 価格は、数量減から比較的値動きが小さく安定して推移し、安値だった前年を2割以上上回り、平年をかなり大きく上回った。

(執筆者：東京シティ青果株式会社 平田 実)

(3) 大阪市中央卸売市場

大阪市中央卸売市場における野菜の入荷量は3万2259トン、前年同月比92.9%、価

格は1キログラム当たり298円、同112.9%となった(表3)。

品目別の詳細については表4の通り。

表3 大阪市中央卸売市場の動向(7月速報)

品目	入荷量(t)	前年比(%)	平年比(%)	価格(円/kg)	前年比(%)	平年比(%)	価格(円/kg)の推移		
							上旬	中旬	下旬
野菜総量	32,259	92.9	89.0	298	112.9	124.6	283	313	300
だいこん	2,299	93.6	84.5	125	113.6	126.1	147	130	105
にんじん	2,246	110.4	104.0	142	67.3	87.6	164	168	109
はくさい	2,512	90.8	91.7	89	127.1	125.9	75	92	103
キャベツ類	4,835	95.3	93.0	100	117.6	115.6	88	103	108
ほうれんそう	276	96.5	82.1	860	102.1	116.7	777	889	923
ねぎ	724	108.9	117.3	524	106.5	111.6	553	525	500
ブロッコリー	451	109.2	88.4	453	95.4	107.3	494	446	420
レタス類	1,943	81.3	86.9	165	120.4	126.0	142	196	167
きゅうり	1,531	84.6	83.2	437	127.8	146.5	447	477	412
なす	937	91.0	95.2	398	112.4	126.2	382	416	396
トマト	1,990	87.6	90.0	447	112.9	125.3	438	469	443
ピーマン	654	100.5	106.3	500	99.8	121.0	544	495	471
ばれいしょ	1,260	77.3	68.1	276	253.2	182.4	277	315	242
さといも	31	129.2	103.3	490	95.5	108.4	589	466	429
たまねぎ	3,420	90.0	81.9	167	135.8	124.7	159	173	170

資料：農林水産省「青果物卸売市場調査」

注1：平年比は過去5カ年(令和3～7年)平均との比較。

注2：大阪本場および大阪東部市場のデータである。

表4 品目別入荷量・価格の動向(大阪市中央卸売市場)

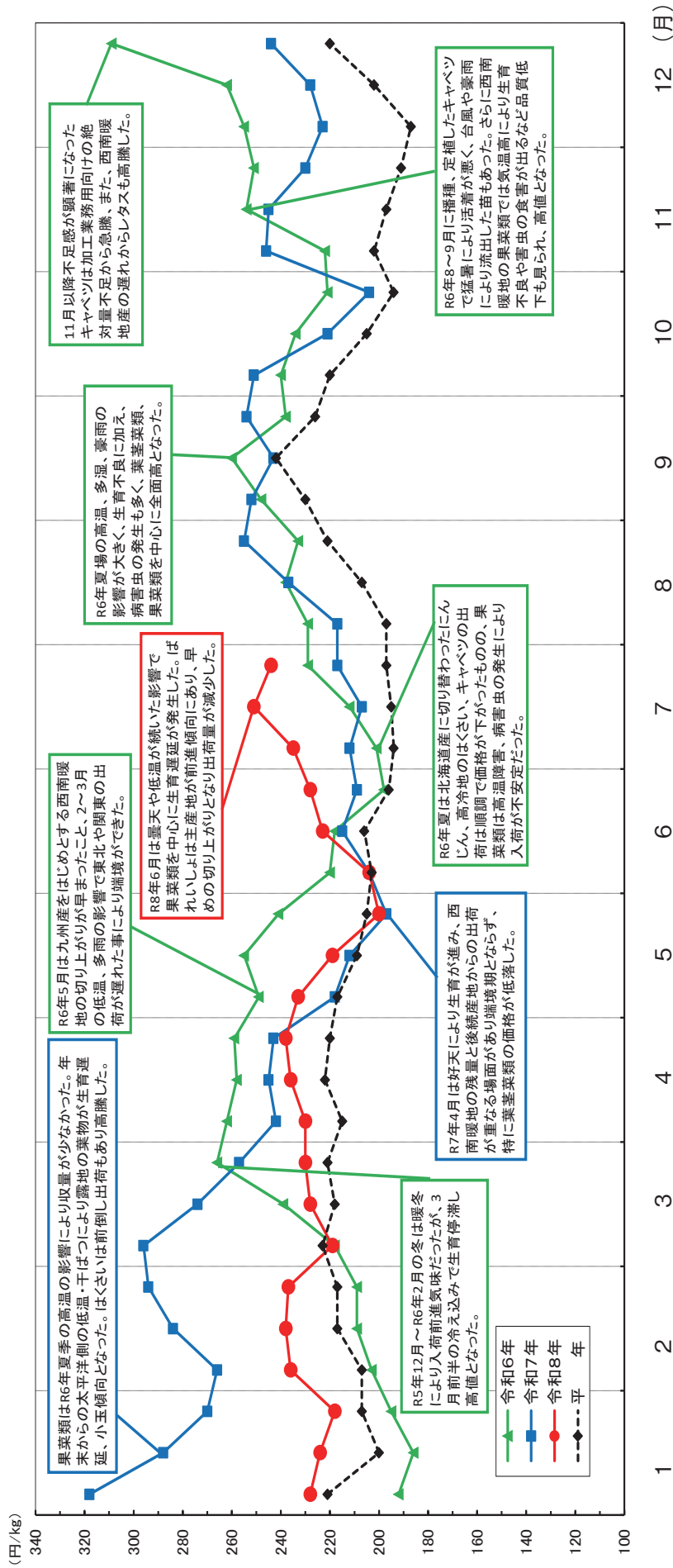
類別	品目	7月の入荷量・価格の動向
根菜類	だいこん 	北海道産が中心となり、岐阜産の入荷もあった。北海道産は作柄不良で、出荷量が少ない状況が続いた。旬を追うごとに入荷増量の傾向だったが、入荷量は伸び悩んだ。北海道産と岐阜産以外の産地からの入荷がほとんどなく、月間全体の入荷量は、前年をかなりの程度下回り、平年をかなり大きく下回った。 価格は、不足感から高騰したまま推移したが、品質低下の影響もあり、旬を追うごとに下落した。月間では、前年をかなり大きく上回り、平年を2割以上上回った。
	にんじん 	北海道産と青森産が主体となり、和歌山産や長崎産の残量入荷もあった。北海道産が前進出荷で、旬を追うごとに出荷増量となり、月間の入荷量は前年を大幅に上回った。他産地との入荷が重なったことから、入荷量が多い状況が続いた。月間全体の入荷量は、前年をかなりの程度上回り、平年をやや上回った。 価格は、北海道産の入荷が急増した下旬に急落し、月間では前年を3割以上下回り、平年をかなり大きく下回った。

葉茎菜類	はくさい 	全旬を通じて気温高と干ばつの影響が大きく、生育が進まずに産地出荷量が少ない状況が続いた。月間の入荷量は前年、平年ともに、かなりの程度下回った。 消費地の気温も高く、消費が鈍いことから量販店での荷動きは鈍い状況であったが、加工筋からの引き合いは強く、価格は旬を追うごとに上伸した。月間の価格は、前年、平年ともに2割以上上回った。
	キャベツ類 	群馬産を中心に、主力の長野産も主体となる入荷であった。気温高と干ばつの影響が大きく、各産地とも出荷量は伸び悩んだ。月間全体の入荷量は前年をやや下回り、平年をかなりの程度下回った。 価格は、不足感から旬を追うごとに上伸し、高値で推移した。月間では前年を大幅に上回り、平年をかなり大きく上回った。
	ほうれんそう 	岐阜産の入荷があった。気温高と干ばつによる生育不良の影響が大きく、産地出荷量が不安定で少ない状況が続いた。月間全体の入荷量は前年をやや下回り、平年を大幅に下回った。 価格は、不足感から高値で推移し、量販店、業務用関係ともに引き合いが強く、旬を追うごとに上伸を続けた。月間では、高値だった前年をわずかに上回り、平年を大幅に上回った。
	ねぎ（白ねぎ） 	鳥取産が主体となり、主力の茨城産や埼玉産の入荷があった。後続の長野産や群馬産も月の後半に入荷がスタートした。鳥取産が潤沢な産地出荷を続け、全旬を通じて安定した入荷となった。他産地からも順調な入荷が続き、月間全体の入荷量は、前年をかなり上回った。 価格は、一定の需要があり上旬に高値を付けた。入荷量が多いことに加え、消費地の気温高で消費が鈍く、旬を追うごとに下落したが、月間では前年を上回った。
	ねぎ（青ねぎ） 	徳島産を中心に、高知産や近隣産地の入荷があった。細ねぎは、高知産と静岡産が主体となる入荷であった。各地とも気温が高く干ばつの影響もあり、生育不良で産地出荷量が少ない状況が続いた。月間全体の入荷量は、前年を下回った。 価格は、量販店、業務用関係ともに需要が高く、発注量が多かったことで引き合いが強まり、月間では前年を大幅に上回った。
	ブロッコリー 	北海道産を中心に、長野産も主体となる入荷であった。各産地とも、干ばつの影響により出荷量が伸び悩む状況が続いた。特売など一定の需要があり、集荷を手配したことから、月間全体の入荷量は少なかった前年をかなりの程度上回り、平年をかなり大きく下回った。 価格は、高値だった前年をやや下回り、平年をかなりの程度上回った。
	レタス類 	玉レタスは、長野産が中心となる入荷であった。干ばつ傾向から産地出荷量が伸びず、中旬に入荷量が落ち込み、月間全体では、前年を若干下回った。サニーレタスは、長野産の入荷があった。玉レタス同様に、干ばつの影響により産地出荷量が伸びず、月間全体の入荷量は前年を大幅に下回った。リーフレタスも長野産が中心となる入荷で、玉レタスやサニーレタス同様に、干ばつの影響により産地出荷量が少なく、月間全体の入荷量は前年を大幅に下回った。レタス類全体の月間の入荷量は、前年を大幅に下回り、平年をかなり大きく下回った。 価格は、玉レタス、サニーレタス、リーフレタスともに、不足感から高値で推移した。月間では前年、平年ともに2割以上上回った。

果菜類	きゅうり	 福島産を中心に、北海道産や長野産などの入荷があった。東北が曇天続きで、福島産は産地出荷量が少ない状況が続いた。北海道産や長野産は、量販店の特売対応のため入荷増量となったが、入荷量を完全に補填するには至らなかった。月間全体の入荷量は、前年をかなり大きく下回り、平年を大幅に下回った。 量販店での特売需要が多く、絶対量不足から価格は高騰した。月間の価格は、前年を3割近く上回り、平年を4割以上上回った。
	なす	 千両系は、茨城産や群馬産が主体で、京都産などの入荷もあった。長なすは愛媛産が中心となる入荷であった。西日本の産地が出遅れたため、関東産地が補填する入荷となったが、主力の各産地は出荷量が少なく、全体としても入荷量は伸び悩んだ。月間全体の入荷量は、前年をかなりの程度下回り、平年をやや下回った。 価格は、消費地の気温が高く需要も増えて引き合いが強まり、不足感から高値で推移し、月間では、前年をかなり大きく上回り、平年を2割以上上回った。
	トマト	 岐阜産を中心に、愛知産や熊本産などの入荷があった。岡山産や愛媛産など夏秋産地が出遅れて、全体としての入荷量が伸びず、月の前半は入荷量が少ない状況が続いた。下旬に回復傾向となったが、月間全体の入荷量は、前年をかなり大きく下回り、平年をかなりの程度下回った。 価格は、引き合いが強い中で不足感から高値で推移した。月間では、前年をかなり大きく上回り、平年を2割以上上回った。
	ピーマン	 宮崎産と茨城産が主体で、主力の愛媛産の入荷もあった。愛媛産が出遅れて月の前半の入荷がなく、関東など他産地で補填する形となった。月間全体の入荷量は、前年をわずかに上回り、平年をかなりの程度上回った。 価格は、前月からの高値を継続し、旬を追うごとに下落傾向となったが、月間では、高かった前年並みで、平年を2割以上上回った。
土物類	ばれいしょ	 丸芋は、茨城産を中心に長崎産の残量入荷や後続の北海道産の入荷などがあった。北海道産が降雨の影響により出荷が遅れ、下旬に入荷が開始するも少なく、九州産地などは切り上がり早く、全体として入荷量が少ない状況が続いた。月間全体の入荷量は、前年を大幅に下回った。メークインは、鹿児島産が主体となり、茨城産などの入荷もあった。後続の北海道産は降雨による出遅れから入荷がなく、全体としても入荷量が少ない状況が続いた。ばれいしょ全体の月間に入荷量は、前年を2割以上下回り、平年を3割以上下回った。 価格は、不足感から高騰し、高値で推移した。ばれいしょ全体の月間の価格は、前年の2.5倍となり、平年の1.8倍であった。
	さといも	 国産の主力である鹿児島産と宮崎産の入荷があったが、降雨の影響により産地出荷量は伸び悩んだ。月間全体の入荷量は、前年を3割近く上回り、平年をやや上回った。 価格は、一定の需要があり、入荷量が多い中でも極端に下がることはなく、月間では前年をやや下回り、平年をかなりの程度上回った。
	たまねぎ	 兵庫産が中心となる入荷であった。前年よりも小玉傾向でM、Lが中心の作柄となり、産地出荷量は伸び悩んだ。全旬とも安定した入荷があったものの、小玉傾向であったことから、月間全体の入荷量は前年をかなりの程度下回り、平年を大幅に下回った。 価格は、大玉の不足感から高騰したまま高値で推移した。月間では、前年を3割以上上回り、平年を2割以上上回った。

(執筆：東果大阪株式会社 新開 茂樹)

(参考) 指定野菜 (15品目) の卸売価格の推移 (東京都中央卸売市場)

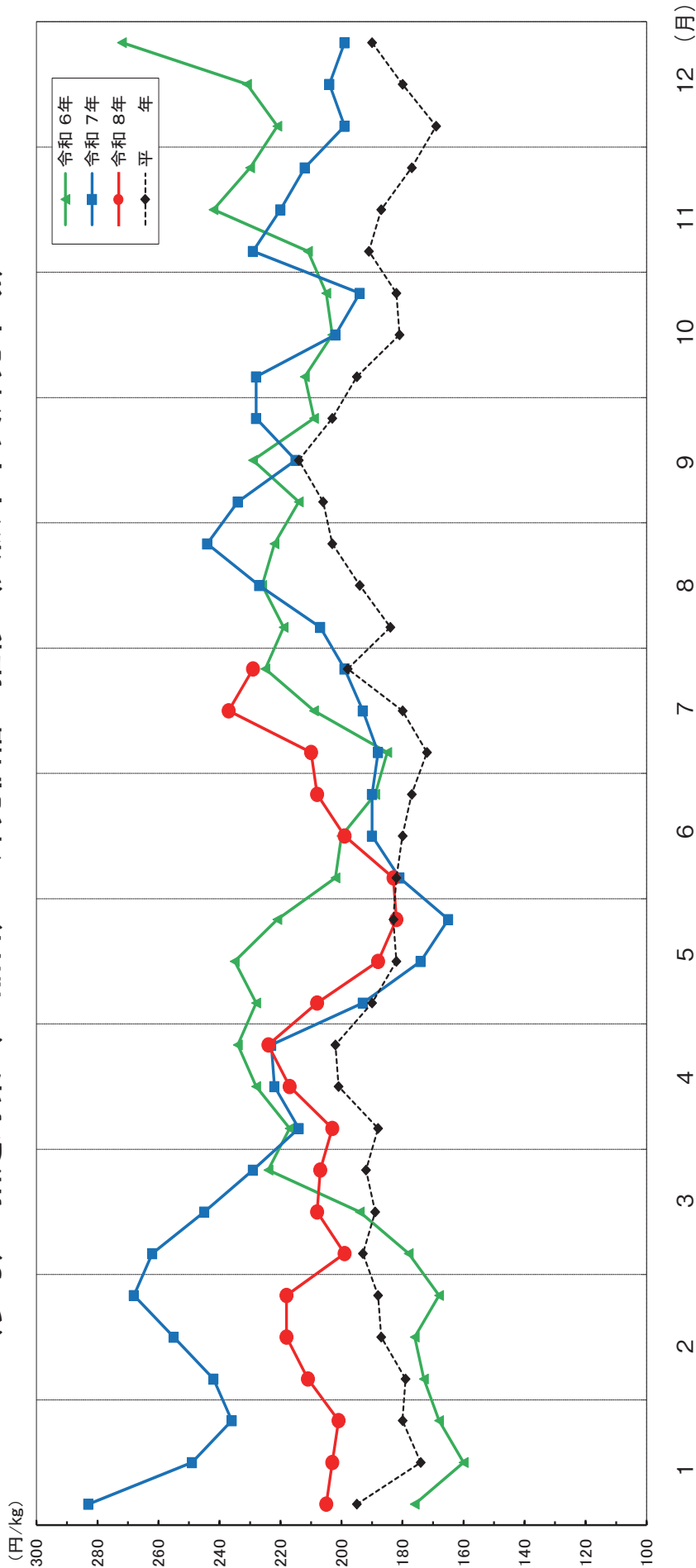


(単位：円／kg)

	1月		2月		3月		4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月													
	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬	上旬	中旬	下旬												
令和6年	188	180	188	195	202	204	210	230	255	251	249	249	240	245	237	212	210	191	193	206	221	223	232	228	240	253	231	231	227	215	215	244	243	245	252	295
令和7年	306	279	260	257	274	285	290	270	253	236	236	235	212	205	191	196	206	199	204	199	211	211	232	249	243	233	246	242	212	196	236	236	222	215	220	237
令和8年	222	215	210	229	231	233	215	221	223	230	236	238	233	219	200	204	223	228	235	251	244															
平	214	193	199	200	210	211	216	213	215	211	218	216	214	206	202	200	202	193	191	192	194	194	204	219	226	238	223	216	202	191	199	193	187	183	199	216

資料：農林水産省「青果物卸売市場調査」
注1：平年とは、過去5カ年（令和3年～7年）の旬別価格の平均値である。
注2：豊洲市場、大田市場、豊島市場、淀橋市場の4市場のデータである。
注3：令和8年6月号（4月実績掲載分）以降、指定野菜はプロコリーを含む15品目のデータである。なお、平年、令和6年、7年のデータもプロコリーを含む。

(参考) 指定野菜 (15品目) の卸売価格の推移 (大阪市中央卸売市場)



(単位: 円/kg)

資料: 農林水産省「青果物卸売市場調査」
注1: 平年とは、過去5カ年(令和3年～7年)の旬別価格の平均値である。
注2: 大阪本場および大阪東部市場のデータである。
注3: 令和8年6月号(4月実績掲載分)以降、指定野菜はブロッコリーを含む15品目のデータである。なお、平年、令和6年、7年のデータもブロッコリーを含む。